

# 三井住友F L フィリピンでリース参入 インフラ需要取り込み

リース大手の三井住友ファイナンス&リース(F L)がフィリピンでのリース事業に参入する。現地企業の発行済み株式を30%取得し、持分会法適用会社とする契約を18日に締結した。高い

経済成長が続くフィリピンのインフラ整備に着目し、建機や再生可能エネルギーの調達需要を取り込む。フィリピンで輸送機や建機、中小企業向けのリースに強みを持つR C B Cリーシングファイナンス(R L F C)の第三者割当増資を2025年中に引き受ける。出資額は20億円程度とみられる。R L F Cは三井住友フィナンシャルグループ(F G)が2割出資するフィリピンのリザール商業銀行の傘下にある。

フィリピンの国内総生産(G D P)は過去10年で平均6%程度伸びており、R L F Cの営業基盤や顧客網を活用してインフラ事業向けのリースを

拡大させる。三井住友F Lの株主である三井住友F Gはベトナムやインドネシアにも出資先の銀行を抱えており、グループの銀行とも連携しながら東南アジアでのリース事業の拡大をめざす。

拡大させる。三井住友F Lの株主である三井住友F Gはベトナムやインドネシアにも出資先の銀行を抱えており、グループの銀行とも連携しながら東南アジアでのリース事業の拡大をめざす。